

「令和4年度小笠原諸島希少鳥類保護管理対策調査」 調査速報（8/7時点）

関東森林管理局
小笠原諸島森林生態系保全センター
一般社団法人日本森林技術協会

1. センサーカメラによる生態・生息状況調査（属島）

※6/25~27回収データまで反映。次回回収は冬期の予定。

カメラ設置台数・期間推移

島	場所	設置時期	台数
	姉島	平成28(2016)年6月～ 令和2(2020)年5月～ 令和3(2021)年5月～ 令和4(2022)年5月～	4台 6台 12台(内 Islands care6台) 9台
	妹島	平成28(2016)年6月～ 令和2(2020)年5月～ 令和3(2021)年5月～ 令和4(2022)年5月～	4台 6台 12台(内 Islands care6台) 9台
	姪島	平成28(2016)年6月～ 令和2(2020)年5月～ 令和3(2021)年5月～ 令和4(2022)年5月～	4台 6台 12台(内 Islands care6台) 9台
	向島	平成29(2017)年5月～ 令和2(2020)年5月～ 令和3(2021)年5月～ 令和4(2022)年5月～	4台 6台 12台(内 Islands care6台) 9台
	平島※	令和3(2021)年5月～ 令和4(2022)年1月～ 令和4(2022)年5月～	8台(Islands care) 6台(Islands care) 4台(Islands care)

※平島は本事業対象区域外だが、一般社団法人 Islands care が独自に設置したカメラのデータについて提供を受けたもの。

カメラ設置箇所

次項の図1に示す。

※カメラ名は今年度増設時につけなおしており、過年度と同地点だが名称の異なる地点がある。

解析方法

- 撮影個体数（個体数は、10分間以内に撮影された生物は同一個体とみなしてカウントした。この方法は、環境省等が実施している方法と同様の解析方法を採用した。）
- 100カメラ日当たりの撮影個体数（毎月のカメラ稼働日数、撮影枚数、個体数を積算し、個体数/100カメラ日換算する。）

撮影状況

- 5月から6月の撮影個体数/100台日は2020年と比較して増加した。特に妹島での撮影個体数が大きくなった。2021年と比較すると低下した（人口水場を設置した平島を除外すると増加）。
- 成鳥・幼鳥の割合は2020年、2021年の同時期と比較すると低く、2022年5月が2.7%、6月が7.1%であった。

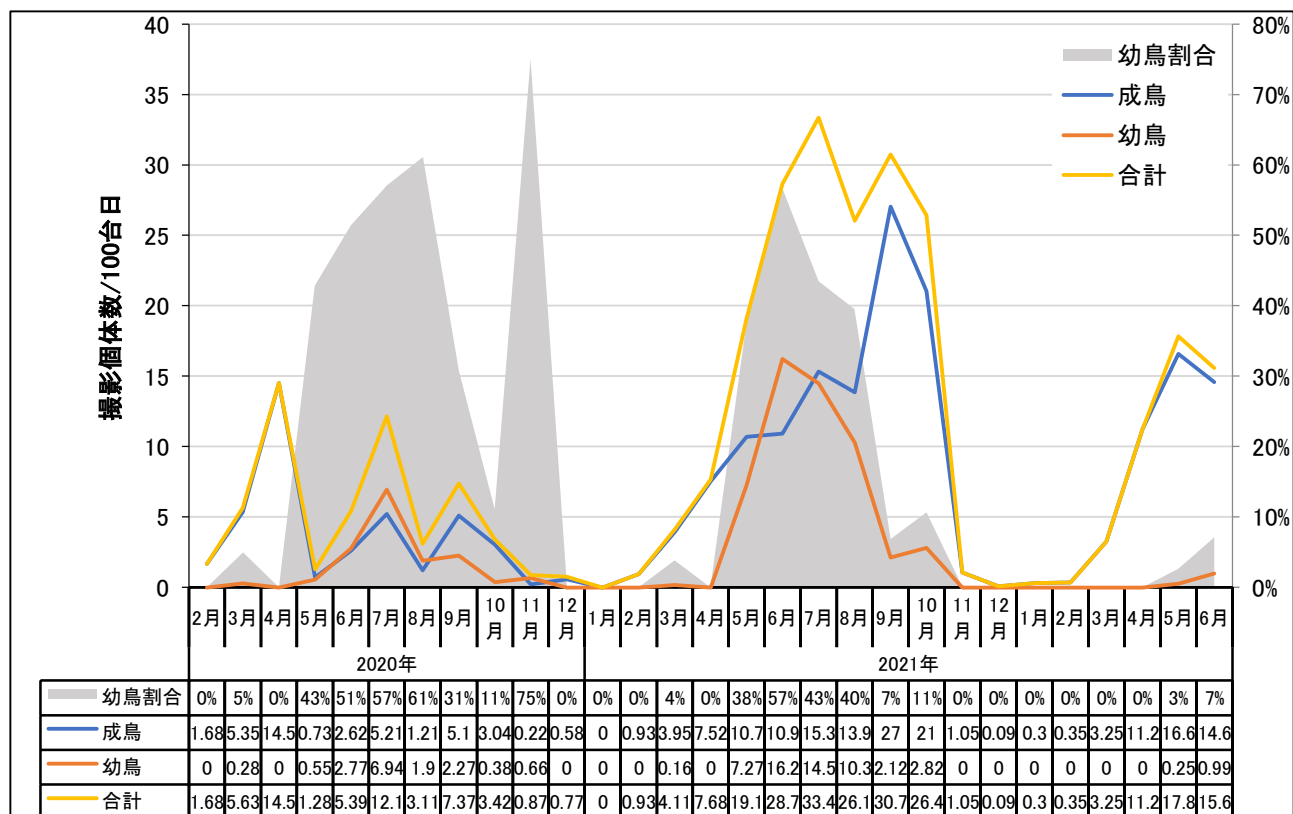


図 4 属島におけるオガサワラカワラヒワ成鳥幼鳥の季節変動（全島）

※設置環境の異なる平島のデータを含む。

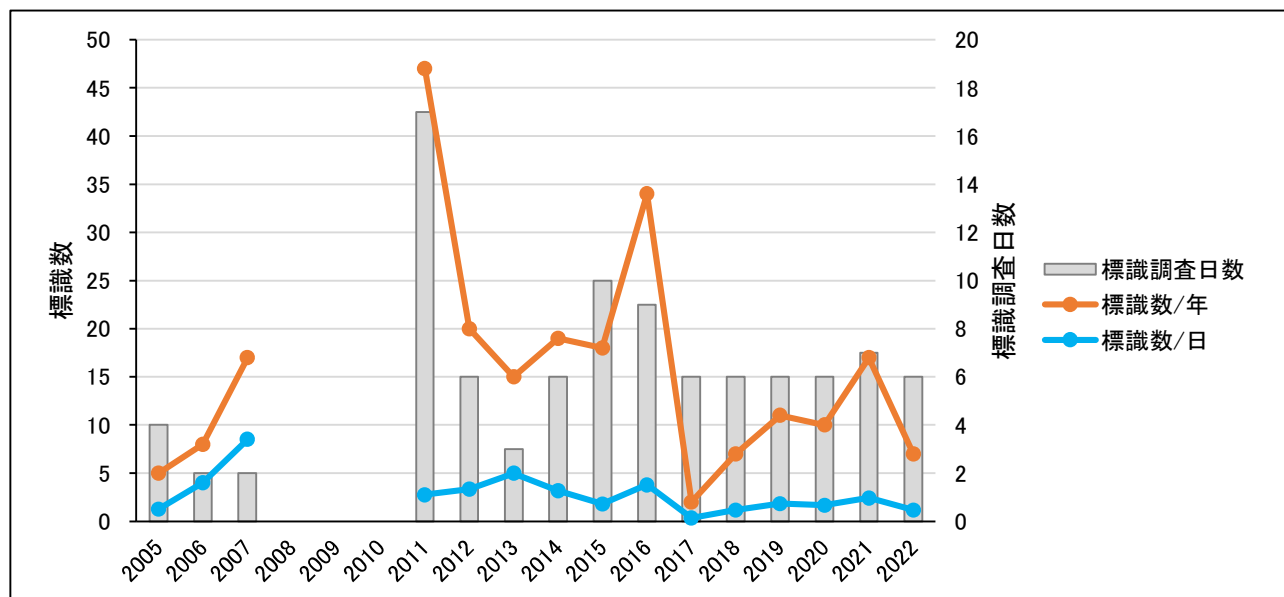
2. 標識調査

調査期間：2022年6月25日～2022年6月30日

調査箇所：向島2日間、姉島2日間、妹島1日間、姪島1日間

結果

- 向島で4羽、姉島で1羽、妹島で2羽捕獲し、姪島では捕獲がなかった。
- 計7羽の捕獲のうち、成鳥5羽、幼鳥2羽で、成鳥のうち1個体は再捕獲個体であった。



(備考) 2021年の東京都による捕獲調査日数には準備期間を含んでいない。

図5 オガサワラカワラヒワの標識調査の標識数の推移

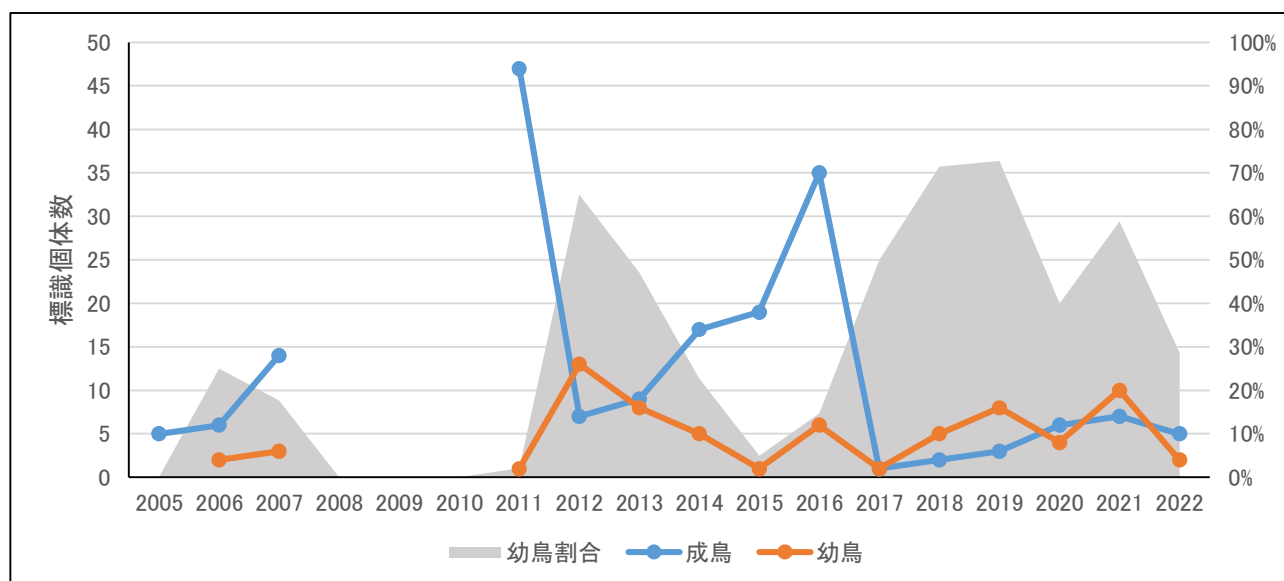


図6 オガサワラカワラヒワ標識個体の齢と幼鳥の割合

3. センサーカメラによる生態・生息状況調査（母島）

カメラ設置台数・期間

島	場所	設置時期	台数	備考
母島	南崎(蓬莱根1)	平成 29(2017)年 6 月～	1 台	沢筋
	南崎(蓬莱根3)	平成 30(2018)年 12 月～	1 台	沢筋
	中ノ平	平成 29(2017)年 7 月～	2 台	農道水たまり

カメラ設置箇所

次項、図 8 に示す。

撮影状況

- 2022 年は現在（7 月回収データ）までにヒワの確認なし。2021 年度も飛来時期が遅く、8 月から確認され始めた。

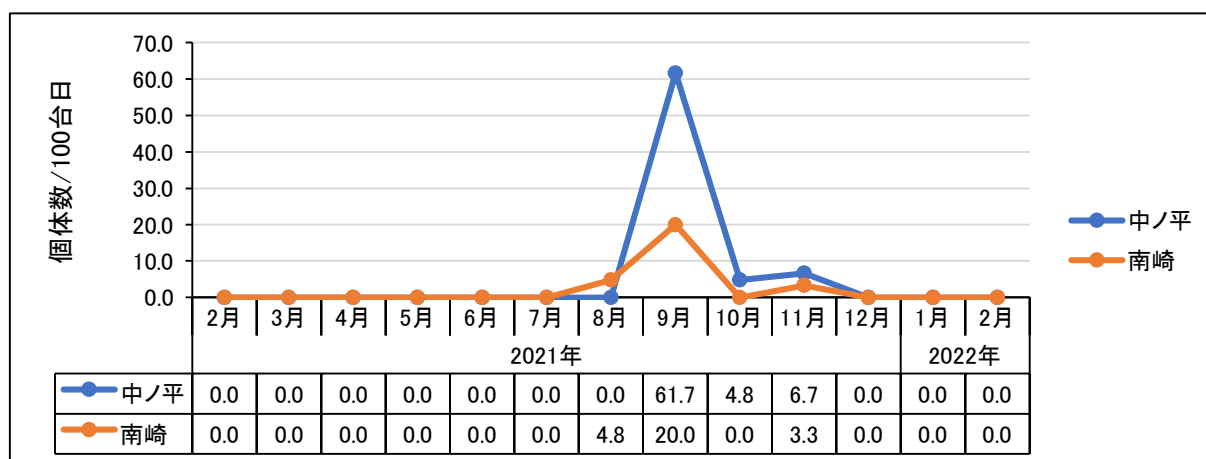


図 7 母島に設置したセンサーカメラにおけるオガサワラカワラヒワの撮影の季節変動（2021 年度）

4. 生態観察調査（母島島内）

調査手法：4月から調査を開始。母島島内（主に南部）を任意に踏査。日の出前後から2時間程度巡回した。

結果

- 8/7までに確認なし